

教えを学ぶ仲間に

既報の通り、静岡県三島市で「白隠さんの会」(白隠禪師奉賛会)の発足記念講演会が開かれ、開会にあたり野口善敬教学部長は「禅の教えは非常に難しいといわれる。その中で白隠さんは、分かりやすく禅を説こうと努力された立派な和尚さん。この講演会を通して禅に対する理解を深め、少しでも心の安らぎを得てほしい」と挨拶した。続いて栗原正雄宗務総長を導師に、会場全員で「白隠

禅師坐禅和讃」を唱え、会のさらなる発展を祈念した。(写真)栗原

宗務総長は白隠禪師の地獄・極楽に関するエピソードを紹介。「今日は極楽の笑顔の顔で講演を聞き、心が静かになる時間になれば」と語った。

また、「これから白隠さんの教えを学ぶ仲間作りをしたい」と入会を呼びかけた。白隠禪師に関する著作を刊行している松原の白隠さんで、



代のさまざまな後は第2のチャンスと考「地獄」についてえて活動していると語り、ユーモアを交えて。「仏教は本来、人間に包まれる場面も便で軽減する宗教。そのランス人に坐禅指ことは本筋からずれてい導したことなどにならないと思う。現代の精神も触れ、「坐禅は心的な苦しみを改心を清めて生きる善するために、坐禅を現原動力になる」と代人に広めてはどうか話した。トーマと呼び掛けた。

これで日本の白隠さんにス・カーシユナー花園大になった。2500年遠諱を学国際禅学研究所研究員山のように裾野が広がった僧堂で居士として坐禅やていく画期的な時期と思参禅した。山田無文老師う。地元としてはなんとは、在家出家者に思いやなく寂しい思いもあるがりがあったと語った。自(笑)、初心を忘れず関身が高名な医師からすいわっていききたい」と話臓がんと診断された時の経験にも言及し、「本当

現代のさまざまな地獄後藤榮山龍澤僧堂師家感し、人生がいかに短い「白隠禪師物語」とのかと感じた」とカーシユナー氏。手術を受け白隠禪師の逸話から、現ると、がんは無く、回復



「白隠さんの会」発足記念講演会